

2014年6月15日

北総線沿線各市長 殿

北総線の運賃値下げを実現する会
会長 太田 誠

北総鉄道株主総会で「自社努力による大幅な運賃値下げ」を提案してください

平素の市政に対するご尽力に心より敬意を表します。

北総鉄道は、去る4月17日、「平成27年度以降、北総鉄道の運賃を平均3.4%値下げとする」案を提示しました。この北総案は、自治体からの補助金なしで「自力での値下げを表明した」という点では評価できるものの、北総鉄道利用者にとっては普通運賃、通勤定期とも値上げであり、通学定期は他民鉄の3倍という高額を10年間も固定化するなど、依然として高運賃が継続するもので到底承服できません。

また北総鉄道の高運賃が、首都圏にある千葉ニュータウンの開発・発展を大きく阻害し、国家的損失ともいえる弊害を生じていることも事実です。

沿線各市はこれを放置せず、是非とも解決の道を開いていただきたく、お願いするものです。

北総鉄道は親会社京成電鉄に主として二つの方法で利益の移転をしています。一つは、京成電鉄が成田空港線の線路使用料(約27億円/年)を事実上北総鉄道に払っていないことによる利益移転です。

もう一つは、北総鉄道が京成電鉄の100%子会社である千葉ニュータウン鉄道に同鉄道区間(小室～印旛日医大)の運賃収入全額という過大な線路使用料を支払わされていることによる利益移転です(約7億円/年)。

これらの利益移転をしても、北総鉄道の利益率は他民鉄の平均13%を2.3倍も上回る30%超であります。あまりに過大なこの利益率を他民鉄並みの13%に抑えれば、約30億円の値下げ原資ができます。

京成への不適切な利益移転をやめ、北総鉄道の利益を他民鉄並みにすれば、あわせて64億円の値下げ原資が生まれます。これらを生かせば京成本線並み運賃に近い、45%もの大幅な値下げが可能です。

北総鉄道の株主である沿線各市は市民利益の擁護を使命としています。

来る6月25日の北総鉄道の株主総会において、ぜひとも「自社努力での大幅な運賃値下げ」を求めて、高運賃に苦しむ市民生活を支援していただきたくお願い致します。

以上